

ベルリオーズの回想録によると、《幻想交響曲》に感激したパガニーニから、ヴィオラの名技を活かした新曲をと依頼されたのが1833年。喜び勇んで作曲を始めたものの、パガニーニにふさわしいヴィオラ・パートを書くことができず依頼は白紙に。心機一転、詩人バイロンの物語詩に材をとり、ヴィオラを主人公に見立てて《イタリアのハロルド》を完成させた。その後この曲を聴いたパガニーニは真価を認め、ベルリオーズに大金を贈ったという。

音楽でドラマを描いた標題音楽のパイオニア

エクトル・ベルリオーズ

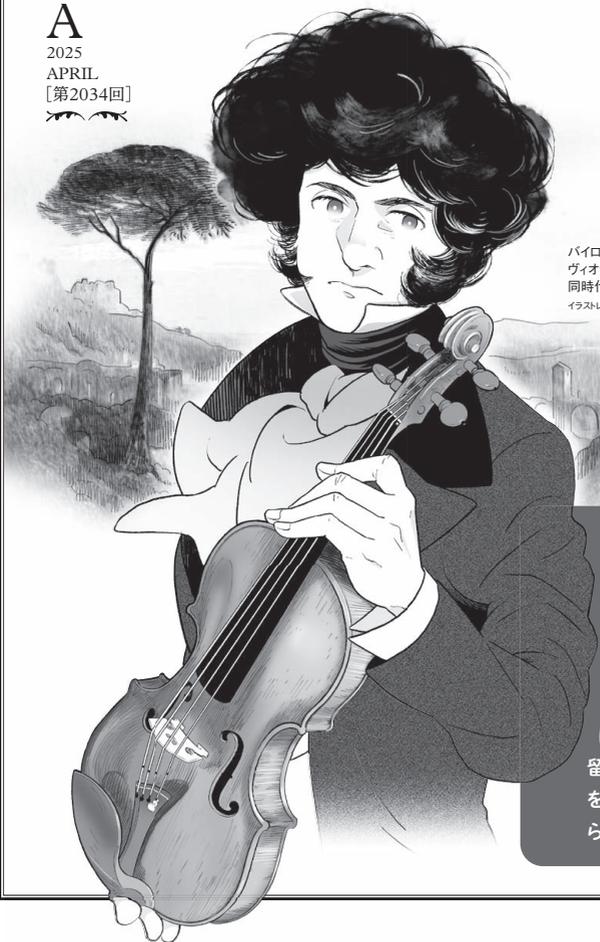
Hector Berlioz (1803–1869)

A

2025

APRIL

[第2034回]



バイロンの「チャイルド・ハロルドの巡礼」に想を得て
ヴィオラを主人公ハロルドに見立てたベルリオーズ。
同時代の画家ターナーも同じ題材でイタリアの風景を描いた
イラストレーション ©IKE

ヴィオラとイタリア

ヴァイオリンよりひとまわり大きく、たく情感豊かな音を響かせる楽器ヴィオラ。バイロンの長編詩はイタリアのアブルッツィ地方を舞台とする。ベルリオーズは作曲家の登竜門「ローマ賞」に何度も挑戦し、ようやく受賞者として留学することのできたイタリアの思い出をハロルドの遍歴に重ね、ヴィオラに語らせようとしたのかもしれない。